

[25_05]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1470214>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 25 (5), 1992-09-25. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

編集後記

毎年百日紅の花が咲くと、夏もうすぐ終わりかなという気になりますが、今年の百日紅は曇空の8月の終わりときびしい残暑の訪れを告げるものとなりました。今夏、世間はバルセロナに染まり、地元西日本短期大学附属高校の甲子園優勝に歓喜していたようです。が、選手団でピカー（の美人）と聞いていた射撃の源選手は金メダルを狙るとまでいわれていたのにプレッシャーのためかまったくふるわず、ニュースで顔を見ることもできませんでした。

すごしやすくなり、研究に、読書に、スポーツに精をだす季節を迎えました。鈴虫の声が増えてくる秋の夜長は、何をするにしてもいいものです。何事につけ、締切のプレッシャーを感じる前に、のびのびとやりたいと思う今日このごろ。

秋は夕暮れとはいいますが、ひいりはててかぜのおとむしのねなどはたいふべきにあらず。

(F)

7月・8月下旬の暑さがうそのように、朝・晩冷え込むようになりました。今年は、夏の間には台風が3度も九州に上陸しましたが、昨年のような被害にもあわず安堵していたところ、アメリカのハリケーンのニュースを聞き被害のあまりの大きさに気が重くなってきました。それにしても、毎年この台風、なんとか生かす方法はないのでしょうかね。

通勤列車も学校が始まるとともに、また、込み合うようになり、何となく活気づいてきました。9月から小・中学校は第二土曜日が休みとなり、その取扱いについて、何度となく新聞紙等で取り上げられています。私個人としましては、土曜日の朝ゆっくり寝られると密かに期待をしています。

列車の窓から見える景色も、住宅や店舗等が増え昔と比べずいぶん変わってきました。いまの時季のたんぼは、もうすでに稲刈りがすんだ田、稲穂がたわわに実って黄金色になっている田、まだ青々としている田（これが今までどおり、6月に苗を植えて10月下旬頃から刈り取る稲）等と変化に富んでいます。植える品種によって時季をずらしてあるようで、少しずつ米作りも季節感が薄れてくるように感じられます。米離れが進んでいる現在、いかにおいしい米を消費者に提供するかが課題のようです。近い将来、消費者個人と農家とが提携して、おいしくて、安全な米を提供してもらおう替わりに、草取り等の労働力を提供するというシステムになるかも知れませんね。

(H. N)